学力向上のための重点プラン【小学校】　新宿区立淀橋第四小学校

【ＨＰ公開用・様式１】

■　学校の共通目標

授業作り	重点	○児童の「意欲を高める」「理解を深める」授業を実践する。基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、それを活用し主体的・対話的な授業の充実を図る。
環境作り		○一人１台タブレット端末を効果的に活用し、個別最適化された学び・協働的な学び・家庭と連携した学び等の充実を図る。ICT 機器を効果的に活用し、児童の驚きや発見を導き、理解を深める。ユニバーサルデザインの視点から個に応じた学びの充実を図る。

■　学年の取組について

学年	学校が取り組む目標 （日常の授業の様子から）	目標達成のための取組	中間評価 ☆成果と●課題	中間追記	２月最終評価
１学年	・平仮名の読み方については、おおむね理解しているが、筆順や「とめ」「はね」等を正確に書くことについては、繰り返し練習し、定着させる必要がある。 ・知らない言葉を正確に理解できるように、教材文の音読や読み聞かせや読書の推進から語彙量を増やし、日常生活の中で使いこなせるようにする。 ・1 から 10 の数は捉えられる。今後、物と物とを対応させることで個数を比べたり、個数や順番を正しく数えたり表したりすることなどを指導し、整数の意味について理解できるようにする。	①語句や語句のまとまりを意識した音読活動 ②学校図書館の活用と読書環境の充実 ③デジタルドリルやプリントの活用 ④具体物、半具体物を取り入れた学習 ⑤ＩＣＴ機器を活用した学習	☆おおよそ全ての児童がひらがなを正しく読むことができるようになった。また、語彙が増え、文章の区切り目を意識した音読を 75%程度の児童ができるようになった。 ☆学習速度に応じた（課題を終えた児童は）デジタルドリルの活用をすすめており、自主的にデジタルドリルに取り組むことのできる児童が 50%程度になった。 ●算数でのブロック（半具体物）を活用する場面では、数と半具体物を対応させて数式に表現することに課題が見られる。	・文章と数式が一致するよう、ブロック（半具体物）を操作する時間を十分に確保して、全ての児童が整数の意味について理解できるように努める。 ・ベーシックタイム（モジュール学習）を活用し、たし算ひき算が未定着の児童には理解が進むよう教師が支援する。また、習熟を深めるためにデジタルドリルに取り組ませていく。	
２学年	・既習のひらがな・カタカナ・漢字について、概ね読み書きはできているが、誤字脱字や句点の打ち忘れが多いので、繰り返し見直しをする習慣を身に付けさせる。 ・文章を読むことに抵抗感はないが、順序を意識した読み取りや、想像を広げ、話全体の内容を正確に理解する力をさらに高める。 ・加法や減法の繰り上がりや繰り下がりのないものは概ね理解できているが、問題文から正確に立式をするためには、内容を正しく読み取る力を身に付けさせる。	①読書の記録カードの活用と読書環境の充実 ②週末の日記の課題 ③場面や段落ごとにキーワードの書き出し ④デジタルドリルの活用 ⑤文章問題の反復練習 ⑥具体物を取り入れた学習	●年度当初に比べ、週末日記の実施や、読書カードの取組を通して、文章を正しく書いたり、言葉を正しく活用したりできている。しかし、繰り返し見直しをする習慣については不十分な児童も見られる。 ☆国語の説明文では、順序を意識させる取組としてワークシートを活用した。段落だけではなく文章全体を意識させて授業を進め、内容理解や順序を意識することにつなげることができた。物語文でキーワードや重要な文章にサイドラインを引かせることで、登場人物の気持ちを想像できる児童が増えた。 ☆問題文の中で立式につながる言葉を見付けたり、具体物を用いて場面を思い浮かべたりする指導を繰り返し行った。立式に自信をもてる児童が増えた。	・誤字脱字や句点の打ち忘れを減らすために、教師が意図的に誤りを含む文章を事前に提示し、児童が正しい書き方を理解できるよう努める。また、見直しをする習慣が身に付くように引き続き声掛けを行っていく。	
３学年	・学習した直後に行うミニテストでは正答率が高い。既習の漢字は、デジタルドリルを活用し繰り返し学習することで、確実な定着を図る。	①デジタルドリルの活用 ②教科書の音読 ③朝読書の推進 ④計算問題の反復練習 ⑤具体物を取り入れた学習	●デジタルドリルに自ら取り組み、定期的に学習を振り返ることで、多くの児童は既習の漢字を習熟できてきたが、不十分な児童もいる。 ☆授業の流れを確立し、教科書の叙述を基に理由を考え意見を交換する活動に取り組んだことで、キ	・今後は、「総合学力調査の振り返り」を活用し、各児童にあったポイントを絞って学習できるようにする。	

	・文章の読み違いがないように、各場面・段落ごとにキーセンテンスやキーワードを読み取りながら授業を進めていく。 ・減法の場面の問題にたくさん触れられるようにする。 ・数直線や時計等の具体物を取り入れて、時計の概念を理解するとともにデジタルドリルを活用し、学習の定着を図る。		ーワードやキーセンテンスを意識して読み取れるようになってきた。 ☆プリントやデジタルドリルを活用することで繰り返し減法の問題に取り組んだ。素早く、正確に計算できる児童が増えた。 ●時刻や時間の単元において具体物を用いて学習を進めた。また、解き方を忘れてしまった児童のために復習する時間も設けたことで、時計や時刻の概念を理解する児童が増えたが、理解が不十分な児童も見られる。	・デジタルドリルを活用し、時刻や時間等個人の課題に応じたポイントに絞って、学習の習熟を図る。また、保護者と連携しながら苦手な学習の習熟をさらに図っていく。	
4学年	・教材文に振り仮名が書かれていても、自分が文章を書く時には、漢字を使って書くように繰り返し声掛けをする。また、漢字の小テストを行うだけでなく、デジタルドリルを多用し、漢字を書く機会を増やす。 ・コンパスの使い方は理解しているが、操作を円滑に行うことに課題が見られる。「円を描く」や「長さを写す」活動を通して、コンパスの活用を繰り返し行い、円滑な操作を身に付けさせる。 ・日常の問題に加え、デジタルドリルを活用して反復練習をさせる。	①デジタルドリルの活用 ②作図問題の反復練習 ③計算問題の反復練習	☆漢字の復習をする際には、ドリルを使ったり、デジタルドリルを活用したりし、自分に合った学習方法で取り組んでいる。 ☆コンパスの使い方に大分慣れてきて、正しく作図できる児童が増えた。 ●わり算の筆算で、「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の順序の定着が浅く、正確に解くことに自信をもてない児童が多い。	・語彙力を増やすために、各自で「言葉日記」を作り、知らない言葉の意味を国語・漢字辞典を活用して調べ、メモをする取組をする。 ・およその数で商をたてる練習をしたり、わり算の筆算の順序を 1 つずつ確認したりする。計算ドリルやデジタルドリルで繰り返し問題に取り組み、正確な解き方の定着を図る。	
5学年	・学習した漢字を日常的に活用するよう、繰り返し声を掛ける。忘れてしまった漢字は漢字辞典で調べて確かめる習慣を身に付けさせる。 ・段落構成を理解したうえで、各段落の役割を読み取る力が必要である。児童への問いかけを工夫することで、中心となる言葉や文に着目できる力を養う。 ・正確に計算をしたり、正しく位取りをしたりするために、繰り返し問題を解いて習熟を図る。 ・文章問題の立式において、数量の関係を図に表して立式し、繰り返し問題を解いて習熟を図る。	①漢字辞典の活用 ②各段落の役割や中心となる言葉の理解 ③デジタルドリルの活用 ④文章問題の反復練習	☆国語の学習時に漢字辞典の使い方を復習したところ、児童が漢字辞典を使用する頻度が増えた。また国語の学習の以外にも漢字辞典や国語辞典を自らすすんで使用する児童が増えた。 ☆児童への問いかけを工夫したことで中心となる言葉や文に着目し、段落構成を意識しながら文章を書いたり読んだりする児童が増えたが、まだ理解が不十分な児童も見られる。 ●新しい位を学習したことで、小数のわり算を正確に行うことや位取りをすることに苦手意識を抱く児童が多い。また、体積を表す新しい単位を学習したのち、単位換算を間違える児童が多くなった。 ☆文章問題は図と一緒に考えるよう繰り返し問題に取り組んだ結果、図に表すことに抵抗のある児童が少なくなった。	・国語「読むこと」の教材では、段落の中で中心となる言葉や接続詞に注目できる問いかけを今後も続けていく。 ・計算ドリルやデジタルドリルの活用を継続し、繰り返し問題を解くことで習熟を図る。単位の関係を復習し、プリント学習を行う。単位一覧表を掲示し児童が単位を身近に感じる機会を増やしていく。	
6学	・説明文は文章を読み解くだけでなく、表やグラフが何を表しているかを読み取る練習を行い、根拠をもとに論述する力を養う。	①表やグラフの読み取り演習 ②デジタルドリルの活用 ③文章問題・計算問題の反復練習	☆説明文において、作者の主張やその根拠を読み取り、三段構成を明確にとらえられる児童が増えた。また、具体と抽象をとらえることで、表やグ		

年	・図形の定義や公式等の定着に向けて、デジタルドリルとプリント学習を併用して問題に繰り返し取り組み、定着を図る。 ・小数や分数の四則演算については、繰り返し問題を解き、習熟を図る。		ラフについて書かれた文章を探し見付けることができる児童が増えた。 ☆作図においては、プリントを活用し、繰り返し問題に取り組んだ。また、デジタルドリルで自分の苦手なところに重点的に取り組み、図形の定義や公式が定着していない児童も進んで問題に取り組む姿が増えた。 ●小数や分数の四則演算は、繰り返しプリントやデジタルドリルに取り組み、概ね習熟をはかれたが課題のある児童も見られる。四則の文章題では、数直線図を描くことで割合や基準量などを捉え、どのような計算か分かる児童が増えた。	・今後も定着を図るため、計算の単元の始めに四則演算の確認をするとともに、プリントやデジタルドリルを活用し、繰り返し問題に取り組む。	